【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成19年2月1日(2007.2.1)

【公開番号】特開2001-159705(P2001-159705A)
【公開日】平成13年6月12日(2001.6.12)
【出願番号】特願平11-343591
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　5/04　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　9/097　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　5/04　C
Ｇ０２Ｂ　5/04　G
Ｈ０４Ｎ　9/097

【手続補正書】
【提出日】平成18年11月30日(2006.11.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　走査線数が６２５本を超えるテレビカメラ装置に内蔵され且つ対物レンズと固体撮像素子の間の光路中に配置され、前記対物レンズ側から第１のプリズム、第２のプリズム、第３のプリズムの順に３つのプリズムより構成される色分解プリズムであって、
前記色分解プリズムは、Ｆ１．４の前記対物レンズの光束を通すことができ、
前記第１のプリズム及び前記第２のプリズムの夫々は、それぞれ入射面及び出射面及び透過面を備えており、
前記第１のプリズム及び前記第２のプリズムは、空気層を介して配置されており、
前記第１のプリズム及び前記第２のプリズム及び前記第３のプリズムの３つのプリズムの夫々の屈折率ｎｅは、１．６より小さいことを特徴とする色分解光学系。
【請求項２】　前記色分解プリズムの分散νｅが
　４２．５≦νｅ≦５０．５
であることを特徴とする請求項１記載の色分解光学系。
【請求項３】　前記色分解プリズムの屈折率ｎｅが
　１．５５＜ｎｅ＜１．５７５
であることを特徴とする請求項２記載の色分解光学系。
【請求項４】　前記第１プリズムの前記入射面と前記透過面との頂角（θ１）が２６．５度であることを特徴とする請求項３記載の色分解光学系。
【請求項５】　前記第２プリズムの前記入射面と前記透過面との頂角（θ２）が３９．７５度であることを特徴とする請求項４記載の色分解光学系。
【請求項６】　請求項１から５のいずれか１項記載の色分解光学系及び前記固体撮像素子が内蔵されたテレビカメラ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】

【００２４】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本発明は、走査線数が６２５本を超えるテレビカメラ装置に内蔵され且つ対物レンズと固体撮像素子の間の光路中に配置され、前記対物レンズ側から第１のプリズム、第２のプリズム、第３のプリズムの順に３つのプリズムより構成される色分解プリズムであって、前記色分解プリズムは、Ｆ１．４の前記対物レンズの光束を通すことができ、前記第１のプリズム及び前記第２のプリズムの夫々は、それぞれ入射面及び出射面及び透過面を備えており、前記第１のプリズム及び前記第２のプリズムは、空気層を介して配置されており、前記第１のプリズム及び前記第２のプリズム及び前記第３のプリズムの３つのプリズムの夫々の屈折率ｎｅは、１．６より小さいことを特徴とする。